

企画展の見所を動画で紹介



# 四百年の時を超え 歴史が動き出す

## 8月から記念企画展が続々開催

絵図や古記録で歴史探訪

昨年10月から連載をスタートした「久留米入城400年モノ語り」が、シリーズ10回目となりました。これまでの紙面にも登場した城下町の絵図や藩領図屏風など、久留米城や城下町づくりに関する歴史資料を一挙に公開する企画展を開催します。これから12月にかけて久留米入城400年記念企画展や関連イベントが続々開催されます。

◆会期8月14日(出)から11月29日(月)までの10時～17時。入館は16時30分まで。火曜は休館(祝日と重なる場合は翌平日) ◆場所有馬記念館 ◆入場料一般210円



▲天保年間久留米城下図や、久留米藩領図屏風など貴重な資料を公開します



梅林寺ティーハウスが 国登録有形文化財に

有馬家の菩提寺・梅林寺の外苑に、梅林寺ティーハウスがあります。国の文化審議会は、文部科学大臣に登録有形文化財にするよう答申



▲梅林寺ティーハウスでは、抹茶や和菓子を提供しています



▼久留米祇園祭礼図(久留米市教育委員会蔵)。巡行に連なる人々の仕草を細かく描いています

# 発掘で知るまちのルーツ

全国でも類を見ない調査

平成元年、三本松公園(日吉町)の発掘調査で、人々を驚かせる遺跡が発見されました。空襲や開発で存在しないとされていた久留米城下町の遺跡が見つかったからです。当時、全国でも城下町跡の発掘は例が少なく、手探りによる調査が進められました。以来30年もの間、130カ所を超える場所から、久留米城の土塁や外堀、武士や町人の屋敷、ごみ穴、地下蔵、庭園、厩などが発見されています。これらの出土品から、城下町の様子や当時の人々の暮らしをたどることが出来ます。

城下町には多くの商人が住んでいましたが、中でも現在の通町一丁目から四丁目に住む職人が格上とされていました。これは、元和7(1621)年、初代藩主・有馬豊氏が入国したことに由来しています。

久留米商人の名を高める

藩主となった豊氏は、城下町の整備に着手します。元和8(1622)年、通町四丁目までが完成し、多くの商人がこの地に住み始めました。元々住んでいた地元出身の商人に加え、豊氏に従って丹波福知山(現在の京都府福知山市)から移住した商人や、家来として入国したものの、武士を辞めて商人になる者もいました。商人たちは、競い合いながら久留米商人の名を高めていきます。発掘調査では、陶磁器などの高級品を持つ裕福な商家跡も発見。町人や武士の家からも、商店の屋号が書かれた「通い徳利」が出土するなど、商才に長けた「久留米商人」のルーツがこの時代に築かれました。

9714)

### 久留米歴代藩主

- 初代 豊氏 とようじ
- 二代 忠頼 ただより
- 三代 頼利 よりとし
- 四代 頼元 よりもと
- 五代 頼旨 よりむね
- 六代 則維 のりふさ
- 七代 頼僮 よりゆき
- 八代 頼貴 よりたか
- 九代 頼徳 よりのり
- 十代 頼永 よりとお
- 十一代 頼咸 よりしげ

は今回のモノ語りと関わる藩主

HP ならではの 秘話も連載中!



▲8月21日(出)から11月3日(祝)まで、六ツ門図書館展示コーナーで開催。城下町の成り立ちなどを、出土品や資料で紹介しします



▲城下町遺跡第1次発掘調査(現三本松公園)。江戸時代の町屋3軒分の遺構などを発見



▶商店の屋号と町名が書かれた徳利

